



パイロット通信1号

平成29年 5月19日（金）

①平成30年度「学びの変革」全県展開に向けて

本校では4月に、全学年全教科で生徒アンケートを実施し、その生徒アンケート結果を分析し、授業研究の前に「研究仮説」をたて、平成30年度から広島県の全公立小・中学校で実施される「学びの変革」全県展開に向けて全教職員で授業改善に取り組んでいます。さらに、「主体的な学び」となるよう「面白い、わかる、楽しみな授業」を通して「一中におけるコンピテンシー」の育成を目指し、「パイロット校事業」最終年度の研究を進めています。



②第1回校内研究会について

5月19日（金）第1回校内研究会を実施しました。1年生の理科の授業で「水や養分を運ぶしくみ」について授業を行いました。身近な植物「スズメノカタビラ」と「タンポポ」の「根」の形状を予想させたのち、タンポポの「根」が自分たちの予想以上に長いことを映像で確認した生徒からは「え〜！」という驚きの声があがりました。植物の体のつくりに驚きと興味を持った生徒は、「根」以外の植物の「茎」や「葉」について「もっと調べてみたいな。知りたいな。」ということをし、思考ツールのウェビングマップで整理し、生徒同士で交流しました。授業後に生徒アンケートを実施したところ、97.1%の生徒が「今日の授業は楽しく、わかりやすく、面白い」と答え、大きな成果があったと実感しました。



府中市教育委員会の木谷淳主査からは『パイロット校として、広島県教育の「学びの変革」のリーダー的存在として、全教職員で授業改善に取り組み、そのことを発信してください。』と期待の言葉をいただきました。